

---

# ドッグファイター

どさんこ侍

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ドッグファイター

### 【Nコード】

N3733S

### 【作者名】

どさんこ侍

### 【あらすじ】

アメリカは関係が悪化し中国、北朝鮮との開戦に踏み切る事となった世界

アメリカの同盟国として否応無く巻き込まれた日本

降って来る火の粉は払わなければいけない

自衛隊隊員の澤基シンはこの戦争に対して主力兵器である人型機動兵器TFを駆り戦場を駆ける

## 奇襲（前書き）

どさんこ侍です

SF書きました

この物語は、今までの二作と比べて続く可能性が薄い作品です  
ま、でも最低あと一話分くらいは書くつもりです  
それではどうぞ

## 奇襲

正午。

12時の時報が、基地の中に響き渡る。

それより前に、自分の所属する分隊で行われた実戦形式の模擬戦が早く終わり、俺なわ澤基シン

は、ここ関東航空自衛隊新高野基地の食堂で、昼食の順番待ちをしていた。

「今日の昼飯は・・・カレーか」

カウンターの横に貼り付けてある、献立を見て呟く。

そして自分の番になり、銀色のトレイに盛り付けられたカレーを受け取った。

「いただきます！」

しっかりと手を合わせて言うと、備え付けてあるスプーンを持ち、カレーを一口ほうばる。

「うまし」

そして、二口目をほうばろうとした時、自身の右肩を何者かにこすかれた。

反射的に振り向くとそこには、二人の男が立っていた。

一人は顎に無精髭を生やした、やや背の高い中年の男。

もう一人は、自分とそう年齢が変わらない、ジャケツトを着た男だ。だが、二人の正体が分かるとシンは、振り向いたときに作った、不機嫌な表情を解いた。

「隊長、それに三島どうしたんです？」

「どうしたもなにも、昼メシ食いにきたんだが」

まず中年の男、すなわちシンの所属する分隊の隊長、工藤くどう漸しげが、口を開いた。

「まあ、そういうことで、一緒にメシ食おうぜ」

同年代の男、三島健が続ける。

「ああ」

別に嫌でもなかったので気軽に応じた。

二人は、丁度よく空いていた長テーブルの反対側に座る。

両者とも食べ始めたので、なんとなく自分も食べ始めた。

食事が佳境に差し掛かった頃、漸が「そういえば」と切り出した。

「さっきの模擬戦の時、俺と澤基のTF同士の接近戦になったんだが、何故あの時距離を取ってライフルを使わなかったんだ？」

「ああ、それは、ただ単に隙が無くてなんか、離れたら撃墜されそうな気がしたからですよ。まあ、結局は墜とされましたけど。」

カレーについてきた、ペットボトルのウーロン茶を一口あおり答える。

「なんだ、そんな事か。」

「じゃあ、隊長は今までなんだと書いていたんですか？」

漸のガツカリしたような口調に、若干プライドを傷つけられたシンは、やや声を荒げて聞いた。

「いや、ただ、なんか澤基が調子乗って格闘戦を仕掛けてきたのかな位に思っていたんだが」

「それだけかー」

気落ちするシン。

「ま、隊長。シンにそんな度胸は、ありませんって」

苦笑を浮かべながら、健が優しくシンをこき下ろす。

「なんだと、三島お前、」

だが、そこまで言いかけた時、外に設置されているスピーカーから、敵の襲来を警告するサイレンがシンの言葉を遮った。

「「スクランブル総員へ通達、第一種戦闘配置。工藤小隊所属、工藤分隊、桜木分隊は緊急出撃願います。」」

間髪入れず、基地内放送でこの状況の、おおまかな指示が出る。三人はあわてて、残ったカレーをかき込むと、周りの隊員を押しつけて格納庫へ、走った。

TF、すなわちタクティカルファイターは、この西暦2018年の現時点における、全世界の主力兵器の座を担っていた。

その汎用性は驚異的で、空を従来の戦闘機以上のスピードで駆け、陸上をこれまでの主力兵器である戦車をその、高出力バツテリーとそれまでは固定式にするしかなかったリニアライフルを装備し、を大きく凌駕した。

そして、それを可能にしたのは、13メートルの変形する人型というのが一番大きかった。

わずか四十秒で、パイロットスーツに着替えたシンは脱衣室を出た。走って、自機の元へ近づく。

そこには、人型形態で鎮座している細身で角ばった、それでいて流線型のデザインを持つ、主に米軍や自衛隊で使用される現時点での自衛隊主力量産TF、TF k12（ローゼン）があった。

背部ユニットにあるコックピットの高さまで昇降装置を使い上ったシンは、中に入り機体を作動させる。

「「急げ」」

通信で漸の声、ヘルメットのインカムから聞こえた。

「了解」

漸機に通信をつなげたマイクに叫ぶと同時に、起動プログラムが終了する。

本来ならば、推進器などの動作チェックをしなければいけないのだ

が、整備がチエックしなくても完璧である事を信じてシンは、機体を滑走路に向かわせた。

背部ユニットの両脇につけてあるメインバーニアの駆動音が高くなっていく。

機体が、揚力を持って地面から離れて行くふわふわした感覚を感じながら、高度を確認する。

そして高度が30mに達した所で、この機体（ローゼン）の特徴である飛行形態への変形を行った。

まず、胴のフレーム部分を使用して腰部分が前方に押し出され、両脚部を後ろに振りだされる。

次に、それその物がセンサーの塊である頭部が胴体内に引き込まれロックし、後ろに振った両脚部の脛の裏側にある尾翼を立てて、最後にリアアーマーのサブバーニアに付いた副翼を避けるように九十度に曲げた腕を脚部のハードポイントに接続、背面ユニットのメインバーニアの主翼を展開し、正面に主武装のレールリアライフルを機首になるように装着すれば変形終了だ。

文面にすればこの様に長ったらしくなるが、実際に変形させると、僅か1・2秒でできてしまうのである。

隊長機や、三島機もこの変形プロセスを終え、三機は高速飛行を始めた。

「陣形を（アロー）にする」  
隊長漸の鋭い指示が飛ぶ。

ちなみに、陣形アローとは、隊長機を先頭に隊員機がその後方左右の展開する、極めてオーソドックスな配置で、他のすべての陣形もこれが元となっていてきているのである。

「会敵まで、およそあと三分」

早期警戒と援護射撃担当の三島が、静かに告げる。

「よし、第一次攻撃隊はシンだったな。いつでも先制攻撃がができ

るように、ミサイルのロックを外しとけ。それに、三島。私が警告を始めたら高度2000まで上昇。援護狙撃を頼む。」

「了解」

いつもは穏やかな性格な漸だが、こういう状況になった時、物凄く頭の切れる男だという事をいまさらながらに痛感した。

「敵機を目視で確認。」

桜木分隊の早期警戒担当が叫ぶ。

「工藤分隊、桜木分隊を統合。陣形をボックスに変更。早期警戒機は散開準備。俺が警告をしても敵機引き返さない場合は、なるべく山の方に引きつけて戦え。市街地に被害を出すとあとが面倒だからな。」

今まで、分隊単位での陣形だった二つの隊は漸の指示でアローからボックスと呼ばれる機体が正方形の各頂点に位置する合同作戦などに用いられる体形に変化する。

「距離9000」

後に散開する為ボックスの右端で飛行していた三島が叫ぶ

「全周波数帯に繋げ警告をはじめ、三島ア！用意を」

「もう、出来てまさあ」

「よし、各機散開！」

機体の主翼、副翼に装備された対TF用ミサイルを確認しながらシオンはインカムに注目した。

「警告する、現在飛行を続けている貴機は、我が国の領空を侵犯している。」

直ちに退去されたし。」

全周波数帯に響く漸の声、三島や桜木分隊の早期警戒機の機体は警告が始まりその姿を雲の中に隠す。

「退去しない場合は、武力を持って排除する。制限時間を設ける。今から五分以内だ」

ほぼ一定の距離を保ち睨み合う両者

しかし、四分と少し経った頃、漸が攻撃命令を下そうとした頃、敵TF隊がミサイルによる先制攻撃が始まった。

## 奇襲（後書き）

### 機体紹介

TF1k12（ローゼン）

主に、米軍、自衛隊などが使用する機体  
変形機構を有する

全長：13・2m

所属：アメリカ合衆国 日本陸海空自衛隊

武装：リニアライフル、高周波振動ナイフ、ミサイル各種、チャフ、  
機銃

色：米国、空自グレー 海自グレー 水色 陸自グレー グリー  
ン サンドブラウン

え〜と即興でデータを考えたものでこんな感じですよ  
（一応本文の設定を基準にしている）  
モデルは、ガンダム00のユニオンなフラッグです

それでは、皆あでいおす

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3733s/>

---

ドッグファイター

2011年10月8日15時45分発行